

アジア民具研究の可能性

——民具体系と生活構造の比較から——

日程 2018年12月8日(土)～12月9日(日) 会場 神奈川大学横浜キャンパス

[第1日目] 2018年12月8日(土) 10:00～17:00 神奈川大学横浜キャンパス 3号館305講堂

対談「民具とは——道具の人間化・人間の道具化」

川田順造(日本常民文化研究所客員研究員) 佐野賢治(日本常民文化研究所所員)

報告Ⅰ 生産生業と民俗技術

「アイヌおよび隣接する北方先住民にみる民具体系の諸相」

大塚和義(日本常民文化研究所客員研究員・国立民族学博物館名誉教授)

「国境地帯のハニ／アカの農耕用具の研究」

楊六金(中国・紅河学院教授)

モデレータ・コメント：川野和昭(南方民俗文化研究所主宰・国際常民文化研究機構共同研究者)

報告Ⅱ 民具誌から見る地域社会の生活構造

「民具から見る中国江南一農村の生活誌」

張正軍(中国・華東理工大学教授)

「韓日磯漁漁具の比較研究——広域体系から見たその変動と民俗文化論」

呉昌炫(韓国・国立民俗博物館学芸研究士)

モデレータ・コメント：佐々木長生(福島県民俗学会会長・国際常民文化研究機構共同研究者)

[第2日目] 2018年12月9日(日) 10:00～15:00 神奈川大学横浜キャンパス 3号館205講堂

報告Ⅲ 民具の機能・形態・象徴

「中国における女神神話と少数民族を偶像化した語り——「網袋」と「縄」の象徴を焦点に」

金善子(韓国・延世大学校中国研究院専門研究員)

「新規性と保守性という観点から台湾原住民族の道具と行動との関係を考える」

野林厚志(国立民族学博物館教授)

モデレータ・コメント：眞島俊一(テム研究所長・国際常民文化研究機構共同研究者)

総合討論

司会：神野善治(武蔵野美術大学教授・国際常民文化研究機構共同研究者)

山田昌久(首都大学東京教授・国際常民文化研究機構共同研究者)



写真1 第1日目／発表風景



写真2 第2日目／総合討論

民具から“*mingu*”へ ——民具研究の国際化——

佐野 賢治

本研究所ではいつの時代、いつの地域においても大多数を占める普通の人々、“常民”の暮らしを明らかにするための一級資料としての民具、その分析視角や方法を検討してきた。そのため過去3回、シンポジウム「モノ」語り——民具・物質文化からみる人類文化——（2010）、「渋沢敬三の民具研究」（2013）、「渋沢敬三の資料学——日常史の構築——」（2014）を開催し、その質疑応答の中で、地域における生活構造、民具体系としての認識、身体との関係性など、その背景を理解す



写真3 登壇者との集合写真

るための論議が残され、その場が求められていた。そこで、今回は、民具の形態と機能さらに象徴に関わる問題系に焦点を当て、東アジア地域（日・中・韓・台湾・東南アジア・極東ロシア）を事例にして民具研究の可能性・有効性を論議する機会として開催された。

はじめに、川田順造・佐野賢治による対談「民具とは——道具の人間化・人間の道具化」が行われ、民具の定義から機能と用途、職人論、身体と道具、自然との適応から現代社会と民具、これからの民具研究などの話題が語られ、現代社会における民具研究の意義づけが論じられた。

その後、3つのセッション、Ⅰ生産生業と民俗技術、Ⅱ民具誌から見る地域社会の生活構造、Ⅲ民具の機能・形態・象徴、がそれぞれ、モデレータ：川野和昭で、大塚和義「アイヌおよび隣接する北方先住民にみる民具体系の諸相」、楊六金「国境地帯のハニ／アカの農耕用具の研究」、モデレータ：佐々木長生で、張正軍「民具から見る中国江南一農村の生活誌」、呉昌炫「韓日磯漁漁具の比較研究——広域体系から見たその変動と民俗文化論」、眞島俊一をモデレータに、金善子「中国における女神神話と少数民族を偶像化した語り——「網袋」と「縄」の象徴を焦点に」、野林厚志「新規性と保守性という観点から台湾原住民族の道具と行動との関係を考える」の発表が行われ、最後に、神野善治、山田昌久両氏の司会により総合討論が持たれた。今回は司会者も、モデレータとしてそれぞれの研究の立場を披露、日本国内の事例を紹介する役割を担った。

参加者は関係学会、研究会が同日に複数開催される中、のべ約130名を数えた。アンケートの記載でも、民具をアジア的視点から見る目、民具を群としてみる必要性がわかったなど開催趣旨を理解する文面が寄せられ、次回開催を期待する声も寄せられた。なお、3名の方の参加記が「民具マンスリー」誌上に掲載されている。白石哲也（52巻2号）、木村涼（52巻1号）、川邊咲子（51巻12号）。また総合討論の時間まで残られた参加者も多く、今回のテーマ設定は、常民研の研究主題、民具をテーマにしたこともあり好評だったといえる。今後とも、民具が *mingu* として国際化する機会を考えていきたいと思う。